

はじめに

— 看護師はみんな疲れてます。 —

私の第1作目、『あかん看護師ブッタ斬り!!』の出版以降、かなり多くの方からご支援を賜り、「共感しました!」「初心に戻って学生さんの指導をしていこうと思います」など、温かいエールをいただきました。

前作をお読みくださった方には、私がどのような思いで看護教育に携わっているのか、よくよくわかっていただけたのではないのでしょうか。タイトルはブッタ斬り感が満載ですが、中身は愛にあふれています(笑)。

ただ、あのタイトルですから、私に対して全面否定や、敵対視する人が一定数存在していることも事実ですし、「こんなにブッタ斬って……」と苦言を呈されたのも事実です。でも、長年私が感じてきた、看護業界、看護教育業界における大問題を、なんとか解決していかなければ……という危機感が

あったので執筆したのです。いわば、大革命です。改革を起こすためには大きなメスを入れる必要があります。

私は、嫌われないように自分を守っていかうとか、昇格に影響するからイイ子にしておこうなど一切思っていない。まあ、だからこそ書いた1冊。覚悟の上での渾身の1冊でした。そして、決して敵を作るために書いたのではなく、頑張っている看護師さんを応援しつつ、看護業界をもっともっと良くしていくために書いたのだということを、まずはお伝えしておきます。

さて、第1作目の出版によって、多くの方の賛同を得たことにとっても安堵しました。そして、なんだか希望とさらなるやる気がムクムクと湧いてきました。アマゾンレビューを読みながら、

「書いて良かった!!!」

「私の思いが伝わった!!!」

と号泣しました。

「全国に私と同じ思いの方たちがいる、私の本で勇気を得た



人たちがいるんだ」

ということがわかり、

「よし！ 2冊目を書いてやろう！」

と決意したのです。

第1作目で、「まだまだ書き足りないな」と感じていたので、第2作目となるこの拙書を書くにあたり、早速目次を考えようとパソコンの前に座ったのですが……。

「はて、何から書いたらいいんやろ？」

と、しばらく章立てが決まりませんでした。

そんなとき、ある方からこう言われました。

「看護師さんって、みんな疲れてますからね」

あゝ、そうだよなあ、と、妙に納得したのです。そして、

「疲れた看護師さんが元気になったら、みんながハッピーになるんじゃないの？」

という考えにシフトしました。その瞬間、それまで目次がまったく思い浮かばなかったのに、たった10分でバツと章立てできたのです。

今回の第2作目は、とにかく全国の看護師さんたち、看護学生さんたちを元気にするためにどうすればいいのか、という、私なりの意見をまとめるかたちになりました。中には、やっぱりブツ斬つている箇所もありますが、それでも単にブツ斬つて終わり、なんてことにはなっていません（……と、自分では思っています）。

第1章では、現場でメツチャクチャ忙しく働いてクタクタになっている看護師さんへのエールを送っています。おそらく、多くの方が同じような境遇なのではないかと思しますので、この章を読んでも少しでも元氣を取り戻してもらいたいです。

第2章では、実習指導に携わっている看護師さんへの応援メッセージを送っています。ただでさえ忙しいうえに実習指導までしなければならない大変さ、よくよくわかります。そんなみなさんが、少しでもストレスを軽減して指導にあたるように……という願いを込めて書きました。

第3章は、私のフィールドでもある教育現場で働く看護教員に向けて書きました。多分、この章に一番力を入れて書き上げています。なぜなら、教育者が看護学生のことを一番に考えられないこと、学生を守ろうという姿勢がない教員が大勢いることが重大な問題であると考えているからです。

愛を持って学生に向き合うこと、しかも、それが教育的観点からなされなければならないこと、そのことについて力説しています。相当ブツタ斬っていることを前もってお伝えしておきます。

第4章は、勉強に追われ、倒れそうになるほど多くの課題に取り組み、実習でコテンパンにされてヘトヘトになっている看護学生を元気にする章です。おそらく、一生の内で一番勉強しなければならぬ時期が看護学生時代……という人も多いのではないのでしょうか。折れそうな気持ちを再び支えて、また前を向いて歩けるように……愛を持って伝えます。

第5章は、少し趣向が違いますが、看護師が目指すべき姿について、私なりの見解をまとめてみました。私の看護観がギュッと詰まっている章。あなたの心に、少しでもエッセンスとして届けば最高に嬉しい！

こんな熱い私の思いがみなさんに届くことを願いつつ……。

ぜひぜひ読んでみてください！